

要 旨

近年、公文書館・博物館・図書館等が所蔵する多くの知的財産を国民や市民へ積極的に還元する目的で、「デジタルアーカイブ」の必要性が唱えられている。筆者が勤務する八潮市立資料館（以下、「当館」とする）においても、令和3年3月1日より同システムの運用が開始された。そこで本稿では、今後広くデジタルアーカイブが地域資料館等において導入され、いっそう公開が促進されるために、当館の事例を中心に同システム導入の課題と展望を考察してみた。

まず第一章では、地域資料館の目的とそれを反映したデジタルアーカイブの導入事例、そして当館が目指すデジタルアーカイブについて述べた。なお本稿における地域資料館は、中小規模（人口50万人以下）の市町村に設置されている公文書館・博物館と定義する。本章ではまず地域資料館が目指すべき姿として、一般市民の「暮らしている地域の歴史を知りたい」という求めにいかに応じることができるかという点を挙げた。この点をデジタルアーカイブに反映させている事例として埼玉県久喜市と埼玉県宮代町のデジタルアーカイブを取り上げている。さらに当館が目指すデジタルアーカイブを、当館が複合施設であるという特徴から、公文書館機能と博物館機能両方の観点で考察した。

続いて第二章では、当館が所蔵している資料の特性を踏まえたうえで、デジタルアーカイブ導入に至るまでの経緯、およびそのなかで発生した課題・改善策について述べた。当館では一般市民が利用しやすく簡単に資料へたどり着けるシステムの構築が課題となり、デジタルアーカイブの導入が検討された。実際に同システムの導入が決まり、一般市民が利用しやすいデジタルアーカイブの整備を目指すなかで、①目録表記の不統一、②一般市民に解読困難な資料の提供方法、といった課題も発生するようになった。これらの課題については①検索しやすさを重視した目録作成マニュアルの整備、②当館ホームページ「れきナビーやしお歴史事典」やTwitterとの連携などで対応し、運用開始後徐々にではあるがその成果を上げてきたところである。

最後に第三章では、これまでの内容をまとめ、地域資料館におけるデジタルアーカイブ導入に際しての課題・展望について検討した。地域資料館におけるデジタルアーカイブの導入・公開に際しては、一般市民の「暮らしている地域の歴史を知りたい」という求めにいかに応じられるかということ意識したコンテンツの作成が必要であり、それはより一般市民が利用しやすいものでなくてはならないことを述べた。ここでは当館や他館の導入事例を踏まえたうえで、公開した先にある目的の資料にアクセスしやすいことや、地域の歴史を幅広く周知することを見据えての導入検討が必要とし、展望としてまとめた。